ショウルーム

Panasonic Living
SHOWROOM

最新のシステムキッチンや、省エネのあかりなど、
明日のライフスタイルをお届けするパナソニックの住まいづくりを
新しいショウルーム（全国約70カ所）で体験いただけます。
パナソニック独自の技術・機器を融合しながら、
くらしを輝かせる“アイディア”を住空間で具現化し、
お客様に明日のライフスタイルをご提案・ご提供します。

パナソニック リビング ショウルーム（2009年6月時点）

札　幌	北海道札幌市北区北9条西2丁目1番地	TEL 011-727-5066	休館日:水曜日・お盆・年末年始
仙　台	宮城県仙台市青葉区二日町11番21	TEL 022-225-4357	休館日:水曜日・お盆・年末年始（※8月移転予定）
東　京	東京都港区東新橋一丁目5番1号	TEL 03-6218-0010	休館日:お盆・年末年始
横　浜	神奈川県横浜市神奈川区片倉1丁目2番23号	TEL 045-481-0045	休館日:水曜日・お盆・年末年始
名古屋	愛知県名古屋市中村区名駅南2丁目7番55号	TEL 052-583-8281	休館日:水曜日（祝日の場合は除く）・お盆・年末年始
大　阪	大阪府大阪市中央区城見2丁目1番3号	TEL 06-6943-9575	休館日:水曜日（祝日の場合は除く）・お盆・年末年始
広　島	広島県広島市中区中町7番1号	TEL 082-247-5766	休館日:水曜日（祝日の場合は除く）・お盆・年末年始
福　岡	福岡県福岡市中央区薬院3丁目1番24号	TEL 092-521-7993	休館日:水曜日・お盆・年末年始

北海道／旭川、苫小牧、釧路、帯広、函館　**東北**／青森、盛岡、秋田、山形、福島、郡山　**関東**／水戸、宇都宮、高崎、さいたま、千葉、柏、立川、相模原
中部／新潟、長岡、富山、金沢、福井、甲府、長野、松本、岐阜、静岡、沼津、浜松、岡崎、津、四日市　**近畿**／滋賀、京都、堺、箕面、神戸、姫路、奈良、和歌山
中国／米子、岡山、福山、山口、下関、周南　**四国**／徳島、高松、松山、高知　**九州**／北九州、久留米、佐賀、長崎、佐世保、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

http://panasonic.jp/sumai/sr/

Panasonic
ideas for life

パナソニック電工株式会社

本　　社　〒571-8686 大阪府門真市大字門真1048番地　TEL 06-6908-1131（代表）
東京本社　〒105-8301 東京都港区東新橋一丁目5番1号　TEL 03-6218-1131（代表）

■発行：CSRM・社会貢献室、宣伝部
2009年6月発行　CSRM-1-① Jun09 5YL
ZECT1900

パナソニック電工 2009
CSR・会社案内

パナソニック電工 2009
CSR･会社案内

目次 contents

02 事業の歩み

03 トップメッセージ

05 事業を通じた社会への貢献
- 05 有識者との対話：快適とエコを両立した新たなくらし
- 07 新しい快適を くらしに、社会に、世界に。

10 環境・職場・企業市民としての取り組み
- 11 環境・社会分野での主な活動と目標
- 13 地球温暖化防止への取り組み
- 15 働きやすい職場づくり
- 17 ひろがる企業市民活動

20 会社概要
- 21 くらしの中のパナソニック電工
- 23 グローバル展開
- 25 業績・財務情報
  会社の沿革・2008年度の主な社外からの表彰

「パナソニック電工 2009 CSR･会社案内」について

これまでは、当社のCSR※活動を紹介した「CSR報告書」と「会社案内」を別に作成していました。
CSR活動は、当社の企業活動そのものであるという考え方から「CSR･会社案内」として一冊にまとめました。
当社は、下記のように4つの冊子とWebサイトで情報開示を行っています。
冊子で説明できる内容は限られていますので、活動の多くはWebサイトでご覧いただくようにしました。
さらに詳細な内容が必要な場合は、ぜひ当社Webサイトをご覧ください。
冊子・Webサイトをご覧になられたご意見・ご感想をアンケートにてお聞かせいただければ幸甚に存じます。

パナソニック電工の情報開示

▶冊子
- CSR･会社案内
- アニュアルレポート
- 入社案内
- 株主通信

▶Webサイト http://panasonic-denko.co.jp/
- 会社情報
- 知る･楽しむ
- 投資家情報
- CSR／社会･環境
- 採用情報
- 商品一覧
- お問い合わせ･サポート

※CSR Corporate Social Responsibilityの略。企業の社会的責任。

事業の歩み

当社は2008年10月に、社名を「松下電工」から「パナソニック電工」に変更しました。また、同年は創業90周年にあたります。
この間、当社が事業を続けてこられたのは、ご愛顧いただいた皆様のおかげと感謝しています。
90年前に創業商品である「アタッチメントプラグ」を開発して以来、技術の強み伝いに事業を拡大し、
アタッチメントプラグの口金の金属加工技術は、照明事業や「バイブレータ」から始まる電器事業の礎を築きました。
アタッチメントプラグの製造技術を活用して、配線器具など情報機器事業へと発展し、
「キーソケット」のスイッチ開閉技術は、「埋込トグルスイッチ」を経て「マイクロスイッチ」から始まる制御機器事業へと発展しました。
プラスチック成形材料技術は、フェノール樹脂など電子材料事業の基礎となり、
さらに「雨とい」から始まる住設建材事業へと発展していきました。

トップメッセージ

企業は社会の公器であることを常に自覚し、快適とエコを両立する商品づくりと、企業市民　活動に取り組んでいきます。

代表取締役社長
畑中 浩一

社会の公器として

当社は2008年、創業90周年を迎え、これを機に、グループのコーポレートブランドである「パナソニック」を社名に冠し、「パナソニック電工」と改称しました。1918年の創業以来、当社が会社運営の基本に置いてきたのは、創業者の「企業は社会の公器」であるという理念です。それは、企業は単に営利を追求するものではなく、人間生活の改善向上に役立ち、文化の発展に貢献しなければ、その使命を果たせたとはいえないということです。これが当社の社会的責任（CSR）に対する考え方の原点です。

この理念を土台に、商品づくりに携わる全社員が心がける大事な思想があります。それは一つの技術や分野を深掘りする「掘り抜き井戸」と、色々な分野の「強み」を他へ応用して事業を広げる「強み伝い」という考え方です。当社の歴史は、創業の商品「アタッチメントプラグ」を起点に、樹脂成形、金属加工などの要素技術を掘りぬき、強み伝いに展開し、その時代、時代のニーズに適合した商品を創出し、世の中にお届けしてきた歴史です。今日では生活快適に関わる商品を中心に、お客様にご愛用いただいている商品は30万品番を超えるまでになりました。

快適とエコを両立させた事業の実現

現在、パナソニック電工グループでは、快適とエコの両立をめざして事業を推進しています。それは、従来からの「生活快適実現」の取り組みを深めるとともに、エコに関わる便益を同時に実現する取り組みです。エコの実現のために快適性が損なわれてはならない、あるいは、快適性を優先させるためにエコが後退してはならないという考えに基づいています。

たとえば、ハイブリッド住宅はその一つです。電力会社からくる交流の電気と、太陽光発電や燃料電池などによって家でつくられた直流の電気を、ハイブリッドカーのように賢く使い分ける住宅の実現です。当社はそのための設備、部材そしてシステムソフトの開発を進めています。これが完成すれば、快適に暮らしながら20～30%のCO_2の削減が実現できるでしょう。また、住宅のみならず、ビルや街を対象に、照明器具や空調、セキュリティの機能を最も経済的に発揮させるためのモニタリングシステム、制御システムの開発にも取り組んでいます。

こうした取り組みを通じて私たちはいま、快適とエコを両立する事業推進に確かな手応えを感じています。

当社「地球環境展」にて

企業市民活動

パナソニック電工では企業市民活動にも積極的に取り組んでいます。

その一つは緑の恩返しを中心とする社会貢献ボランティア活動です。特に、2007年から始めた和歌山県田辺市龍神村での植林活動（「ながきの森」活動）では、新入社員、役員、従業員、社員OBとその家族が一体となって植林を実施しています。この活動を通して、森林保全活動の大切さを学び、また従業員やその家族と触れ合い、地元の人々と交流することは私たちにとって大変意義深いものです。

二つ目は2003年に東京本社ビルに開設した汐留ミュージアムです。当館では、フランスの画家ジョルジュ・ルオーの作品を展示するとともに、「建築・住まい」「生活文化」をテーマにした各種企画展示を開催し、当社の文化情報発信基地の役割を担っています。

1974年創部のアメリカンフットボール部は仕事とクラブ活動を両立し、徹底したアマチュアリズムを守りながら、2008年をはじめ、これまで6度の社会人王者の栄冠を手にしました。また休日には地元の高校生、大学生を指導するなど、アメリカンフットボールの普及拡大や市民との交流も大事な活動の一つになっています。

私たちの本業は商品づくりであり、社会に役立つ商品をつくることこそが、社会貢献の第一義です。しかし同時に、私たちは社会・市民の一員であり、企業市民活動も重要な責任の一つであることを忘れてはいけません。「企業は社会の公器」であることを常に自覚し、これからも着実に社会的責任を果たしていきます。

「ながきの森」では自ら植林に参加

田辺龍神・ながきの森

事業を通じた社会への貢献

有識者との対話

快適とエコを両立した新たなくらし

快適性と環境の両立は、パナソニック電工の事業テーマであると同時に、CSRにおいても重要な課題です。この、当社が考える新しい時代の「ここちよいくらし」に関するビジョンについて、社外の有識者の方々と意見交換を行い、貴重なアドバイスをいただきました。その内容の要旨をご紹介します。

（2009年3月13日開催　※参加者の肩書きは開催時のもの）

テーマ1 「快適なくらし」とは

ピーダーセン　本日は快適とエコの両立を進めるにあたって皆様から貴重なご意見をいただきたい。まずは「快適なくらし」とはどんなものでしょうか?

高橋　昨年、デンマークに行ったのですが、向こうの市電は次の駅の案内があるだけで、ドアも自分でボタンを押して開ける仕組みでした。そんな環境から帰ってきたら、日本は至れり尽くせり。何て過保護なんだろうと。デンマークが不親切という意味ではなく、日本はもっと不親切でいいのではないかと感じました。もちろん安全や安心の部分は、高度な制御を進めていくべきだと思いますが、過度な機能提供により人間をだめにしてしまったら、せっかくの技術も不幸を招くと思うのです。**人間は多様なのですから、どこかで突き放してもいいのでは**ないでしょうか。

善養寺　私も同感です。楽なものばかりを追求してしまっていいのか。その結果、人が退化してしまう可能性があるということを、行政・社会と考え、どこまで制御するのかを決めていく必要があると思います。

求められているのは、人がただ楽になるのではなく、自然と共存しながらも快適な生活。つまり、生物のデザインに基づく製品と技術だと思うのです。

高橋　確かに、生物の原理に基づくデザインは、根本的な技術思想として必要だと思います。もし、パナソニック電工のような大企業が技術思想をその方向にシフトできれば、たいへんなイノベーションになると思います。

さらに課題となるのは、その技術思想をいかに応用するかということ。**優先されるべきは、生存に直結する快適の制御です。**快適と快楽を誤解している人がとても多いですが、重要なのは健康や生存に関わるものを担保することです。

実際、快適性の研究をつきつめると、結局は個人の価値観の問題に立ち入ることになって、一般解は得られない。これからは個人の嗜好よりも、社会・個人として持続・生存できるかということをベースにすることが重要だと思います。石油がなくなる将来、快適の概念も変わってくるでしょう。

野村　当社の商品は、お客様の家族構成や状態に合わせて、必要な機能をアドオンする型にしています。基本性能として考えているのはエネルギーとセキュリティで、それ以外はそれほどシステム化していません。システム化するかどうかは、お客様の選択次第なのです。

私たちは制御という概念を捨てて、個に対して「アダプティブ」にしようという方向をとっています。つまり、万人にとって一番いいものを設計するというアプローチではなく、その人の状態に合ったルールを選択できるようにする。個に合う良いものを開発しようという思想です。

善養寺 幸子氏
オーガニックテーブル㈱ 代表取締役
㈱エコエナジーラボ 代表取締役（一級建築士）

〈専門〉
環境共生住宅の設計・監理、住宅設計に直流給電導入を検討

高橋 達氏
東海大学工学部建築学科
准教授

〈専門〉
住宅の涼房、自然暖房の研究、自然のポテンシャルを活かす住環境教育、エコトイレの研究、資源・環境と人間の持続的活動との関係をエクセルギーにより解明する研究

テーマ2 トータルシステムによる「快適とエコ」の実現

ピーダーセン　では、新しい時代の「快適なくらし」をいかに実現するか。世界の動向を踏まえて広い視野で市場を見たときに、パナソニック電工が向かうべき方向について議論したいと思います。

高橋　これからは、システム全体のつながりを意識した商品開発が、ますます大事になる。パナソニック電工には多様な商品があり、様々な技術者がいるので、こうしたつながりを理解する素地がつくられるのではないでしょうか。違うセクションの人間が同じイメージを持って議論し、異なる要素を統合して考え、エネルギー供給に始まり、末端でのユーザー利用に終わる一連のシステムを構築するのはとても大事なことです。その視点に立てば、非電化製品の開発も選択肢としてありえると思います。

特にいまは、**技術開発の方向性を自然の原理に根差したものにして、街単位で考えればきっと面白い**ものになるでしょう。

善養寺　私もいま一番取り組みたいと思っているテーマは、タウンマネジメントやエネルギーマネジメントです。街全体でエネルギーの有効利用が可能になれば、住宅単体ではできなかったことができる。たとえばビルの廃熱を住宅のエネルギーに活用したり、街路樹の気化熱を利用してヒートアイランドを抑制したり。それらを実現するためにも、**タウンマネジメントの未来像を行政と一緒になって描いて欲しい。**

ピーダーセン　皆さんの意見に共通するのは、**生命を育む技術が未来のテクノロジーの姿**だという点です。つまり重要なのは人間。人間がいるタウンマネジメント。技術エンジニアリングだけではなく、ソーシャル・エンジニアリングが必要であると。そして、それを実現するためには行政・社会への提案、協働なくしてはできない。未来のシナリオを自らつくっていき、それをビジネスにしていく。パナソニック電工は、そうした新しいテクノロジーのアプローチを社会に提唱していってはどうかということです。

野村　おっしゃる通り、当社の基本はタウンマネジメントの視点だと思っています。パナソニック電工はこの分野でスキルと経験のある数少ない会社です。私たちはあらゆる部門を持っていて、いろいろな技術を持っている。他から見ると、とてもうらやましい状態だと思います。快適とエコをトレードオフではなく、アダプティブにつくることのできる企業かもしれません。

そしていま、我々がめざしているのは、住んでいる**人間が我慢するのではなく、ほどよいバランスのなかで、生態系にも無理のない状態をつくりだす**こと。人工物ではあるが、自然環境に限りなく近い環境をアダプティブにつくりだすことです。

それを実現するために、我々ならできるという信念を持って、個々の企業を巻き込みながらやっていきたい。環境問題は、国がやるものではなく、企業がやらなくてはならないと考えています。そのための技術開発を、様々な人の意見を聞きながら進めていきたいと思っています。

ピーター・D・ピーダーセン氏
〔ファシリテーター〕
㈱イースクエア 代表取締役社長

〈専門〉
環境・サステナビリティ関連の戦略コンサルティング・企画制作・環境教育など

野村 淳二
当社 代表取締役副社長
CSRM担当役員（全社技術担当）

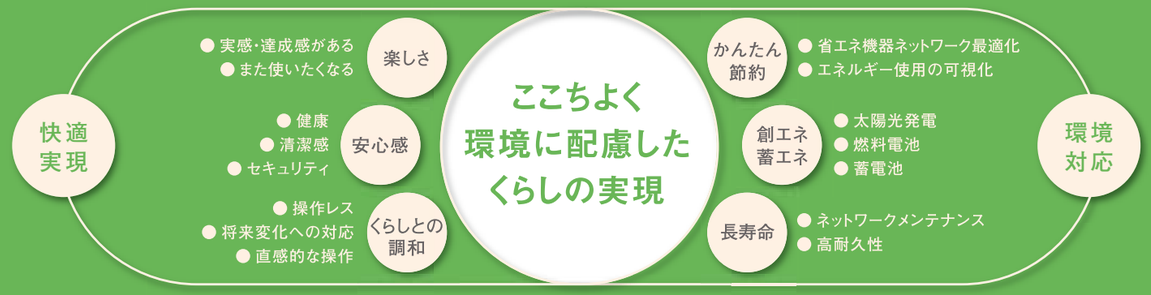
※肩書きは開催当時

事業を通じた社会への貢献

新しい快適を くらしに、社会に、世界に。

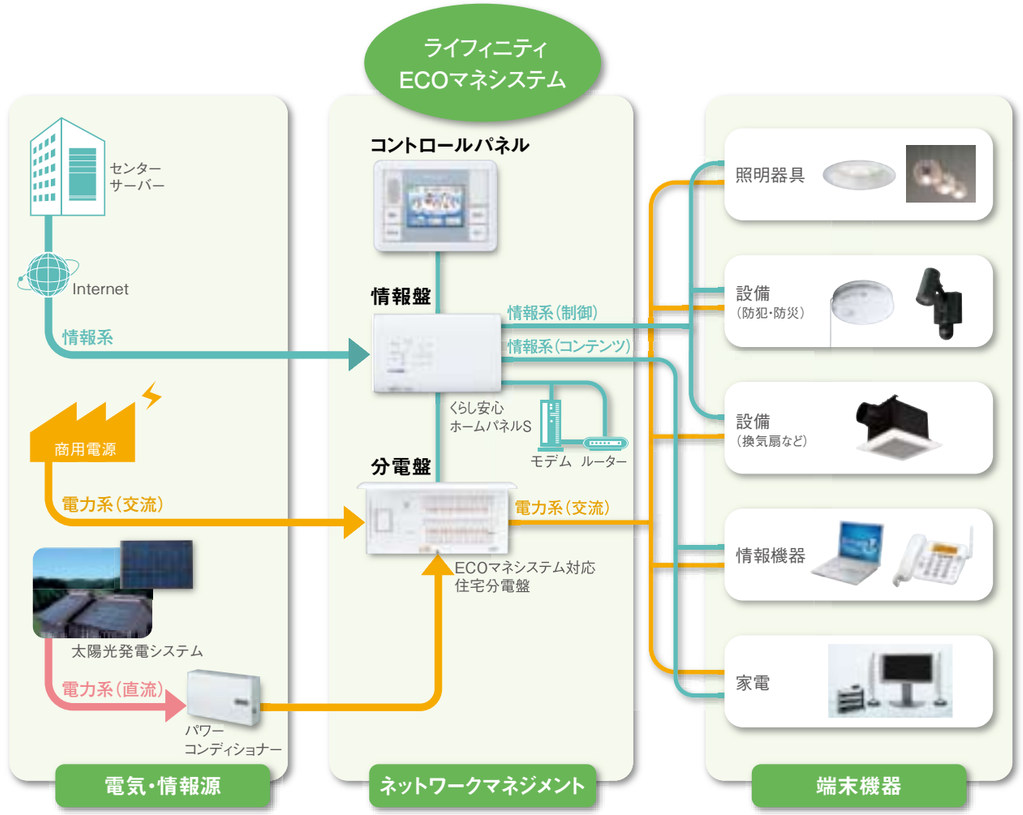
快適とエコの両立をめざす

これからの社会やひとのくらしはどう変わっていくのでしょう。
環境のことを考え、自然と共生しながら、心豊かな生活を育む社会づくりが求められてきます。
太陽を、風を、水を、空気を上手に生かし、地球に負担をかけないで
快適にくらしていくための工夫が必要になります。
当社は衆知を集め、「知」と「知」をつないで、人間の欲求と地球環境の両方が満足できる
快適とエコの両立した生活空間を提供し、社会と世界文化の進展に寄与することをめざします。



住まいのマネジメント

エコライフを支える我が家の賢いネットワーク



将来のハイブリッド住宅の実現に向けて

当社では、住宅の省エネをお手伝いするライフィニティECOマネシステムを提案しています。電気機器や情報機器をネットワークでつなぎ、使用している電気を情報盤・分電盤で常時モニタリングすることで省エネを支援するシステムを提供しています。

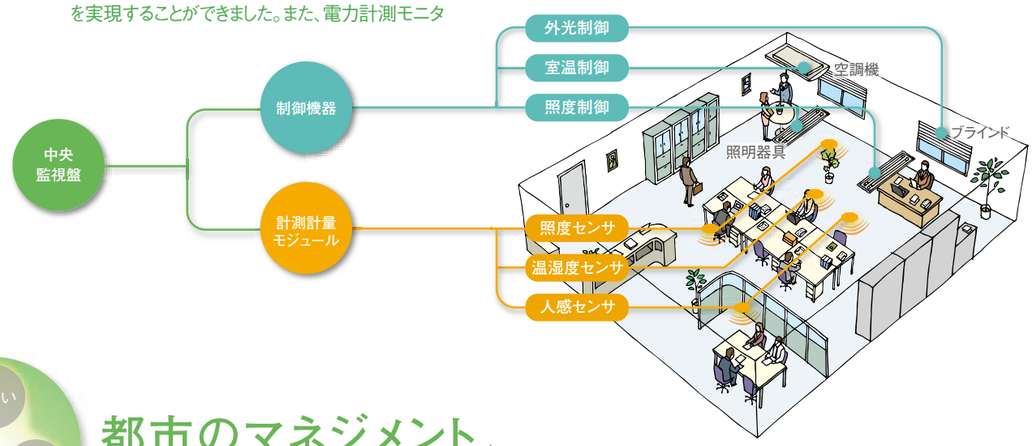
また、現在、LED照明などをはじめ家庭で使用されている機器の多くが直流で稼動していることや、太陽光発電などの創エネ設備が直流電気を発電していることに着目。将来に向けて直流電源を従来の交流に加えて積極的に活用する、ハイブリッド住宅電気設備の開発に取り組み、省エネを実現しながら安心・快適な生活を実現することをめざします。

小新 博昭 情報機器R&Dセンター
藤岡 透 先行技術開発研究所
森本 直久 情報機器新事業推進部
(写真左から)

ビルのマネジメント

ビルまるごとソリューション

オフィスビルや公共施設などでは、人々が快適に活動できるよう、照明や空調が稼動しています。これまでは、それら設備が単独で動いていたものを人感センサや照度センサなどのセンサをネットワークに接続し、一括管理することでビル全体の快適性と、省エネルギーのソリューションを実現することができました。また、電力計測モニタで現在の消費エネルギーを「見える化」することで運用状況を確認しながら改善を進めることができます。当社は、東京本社ビルに「ビルまるごとソリューション」を導入することで消費エネルギーを、建設当初の2003年度と比較して13.6%の削減を実現しています。



都市のマネジメント

街や都市での快適とエコの両立

住まいやビルで培ったノウハウを今後は街や都市に活用したいと考えています。様々な機器をネットワークにつなげることで、街全体での照明制御、セキュリティや防犯を一元で管理でき、街ぐるみでの省エネ、安全につながると考えています。さらに、平常時の快適や省エネだけでなく、災害時や緊急時における情報収集や情報発信などの活用も考えられ、街や都市での快適とエコの両立を進めていきます。

北京市運動公園での広域照明制御システム

2008年に開催した北京五輪のメイン会場(広さ:2.4km×1.4km)にある18,000灯の照明を制御するシステムを納入しました。ここにはこれからのユビキタス社会に必要な最先端のネットワーク技術を使用して広域でのエリア照明制御を実現しています。このシステムにより従来の制御方式と比較して約23%の省エネを実現しました。

北京市運動公園(実験模型)

環境・職場・企業市民としての取り組み

工場での省エネ活動

ワーク・ライフ・バランス

ダイバーシティ推進活動

植林活動

ヨシ刈り活動

環境・社会分野での主な活動と目標 11
地球温暖化防止への取り組み 13
働きやすい職場づくり 15
ひろがる企業市民活動 17

環境・社会分野での主な活動と目標

自己評価について 😄大きく推進・改善できた ☹推進したが目標に未達

（2008年度：2008年4月1日から2009年3月31日）

重点テーマ			2008年度目標 （ ）内は2007年度実績	2008年度実績	自己評価	内容	2009年度以降の計画 （数値は2009年度の目標）
環境	商品	グリーンプロダクツ（GP）販売比率 GP：右欄参照	62.0%	61.9%	☹	省エネ・省資源・クリーンに配慮し、業界トップレベルの環境性能を持つ商品をグリーンプロダクツ（GP）と定義。その販売比率の向上に取り組んでいます	64%
		省エネ商品使用時省エネ量	2007年度比 4.0%増	2.9%減	☹	当社省エネ商品をお客様がご利用いただいたことで削減できたエネルギー量を集計。その増大を図っていますが、市況悪化による販売減少の影響で目標未達	2008年度比4%増加
	工場	クリーンファクトリー（CF）認定率 （グローバル製造部門） CF：右欄参照	80%	93%	😄	各工場のCO_2排出量や廃棄物、化学物質などの一定基準をクリアした工場をクリーンファクトリー（CF）として認定する制度を実施。認定率の向上に取り組んでいます	85%
		CO_2排出総量（グローバル製造部門）	44.3万t-CO_2	39.7万t-CO_2	😄	地球温暖化物質の一つであるCO_2排出量の削減をグローバルで進めています	38.5万t-CO_2
		環境事故件数（グローバル製造部門）	0件	0件	😄	環境事故ゼロの継続に努めています	0件の継続
		廃棄物（有価物含む）発生量原単位削減 （国内製造部門）	2000年度比 19.0%削減	10.2%削減	☹	資源の有効活用を図るため、生産ロス削減などにより廃棄物の削減を図りましたが、市況悪化による減産の影響で原単位は目標未達	グローバルで2000年度比18%減
		水使用量原単位削減 （国内製造部門）	2000年度比 38%削減	32%削減	☹	貴重な水資源を保全するため、水の循環利用などによる水使用量の削減に努めています	2000年度比39%減
		重点化学物質排出移動量の削減 （グローバル製造部門）	2005年度比 6%削減	41%削減	😄	化学物質による環境リスク低減のため、重点的に削減すべき物質を選定し、その排出・移動量の削減に取り組んでいます	2005年度比8%減
お客様	品質	ISO9000シリーズ認証取得率（単体製造部門）	（100%）	100%	😄	品質マネジメントのレベルアップに努めています	100%の継続
		製品安全リスクアセッサー人員 （設計部門） 製品安全リスクアセッサー：右欄参照	（52名）	99名	😄	製品安全上のリスクを広い視野で事前に抽出・低減できる人材（製品安全リスクアセッサー）の育成に努めています	製品安全リスクアセッサーの人員拡充・能力向上に努めます
	お客様対応（CS）	アフターサービス部門の顧客満足度	75ポイント以上	76ポイント	😄	年1回、アフターサービスを受けていただいたお客様を対象に、外部調査機関によるヒアリング調査を実施し、満足度を評価しています	今後も顧客満足度の向上に努めます
		啓発講座受講者数	（4,000人以上）	約6,000人	😄	全国の市町村で開催される消費者向けの啓発講座に当社社員を講師として派遣し、“省エネ”“快適”“安全”などをテーマに無料で講演しています	6,000人以上
	ユニバーサルデザイン（UD）	UD認定商品数	（20商品）	22商品	😄	社内基準をクリアした「UD配慮商品」の中でも、業界初またはトップレベル商品を、社内外のUD専門家による審査を経て「UD認定商品」と位置づけています	業界をリードするUD商品の創出や、まちづくりUDの取り組みを加速していきます
従業員	労働安全衛生	災害発生度数率（100万時間当たり） （単体）	（0.00）	0.06	☹	災害発生件数の根絶に努めています。発生してしまった災害については、原因や状況などを蓄積・公開し、類似災害の防止に努めています	災害発生の撲滅に努めます
	ワーク・ライフ・バランス	社員一人当たりの労働時間効率化	50時間減/年	50時間減/年	😄	「シゴトダイエットプロジェクト」や「労使JIKAN取り組み」などの活動により、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて労働時間の効率化を進めています	さらなる仕事の効率化と年休取得を促進し、一層のワーク・ライフ・バランスの実現をめざします
	ダイバーシティ	役職者における女性比率 （単体）	1.2%	1.1%	☹	女性の活躍を促進するため、積極的に女性リーダーの育成を図っています	1.3%
		外国人従業員数 （単体）	35人	42人	😄	外国人社員の活躍を進めるため、職場の環境整備を進めています	45人
		障がい者雇用率 （単体）	2.4%	2.41%	😄	法定雇用率を上回る障がい者の雇用率確保を進めています	2.4%
調達先	下請法	事業場間相互監査数	53事業場	53事業場	😄	事業場同士が相互に監査を行い、取引の適正化に努めています	今後も全事業場を対象に、相互監査を推進します
企業市民		企業市民活動参加人数	（−）	約3万人	😄	植林活動や事業所周辺の清掃活動などに、のべ約3万人が参加しました	今後も企業市民活動をひろげていきます
マネジメント	コンプライアンス	倫理リーダー数（累積）	（約1,500人）	約1,900人	😄	コンプライアンス意識向上のため各職場に倫理リーダーを配置し、全社レベルの底上げを図っています	連結会社も含め、コンプライアンス意識の醸成に努めます
	情報セキュリティ	情報セキュリティe-learning参加率 （単体）	100%	100%	😄	情報セキュリティ管理レベルの向上に向け、従業員対象のe-learningを実施しています	従業員の情報セキュリティ意識の向上に努めます

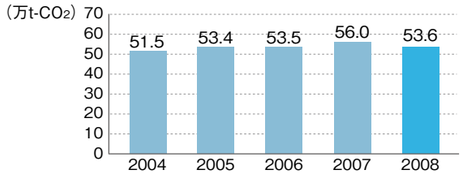
地球温暖化防止への取り組み

グローバルな問題の中で、いま最も取り組みが求められている課題が環境問題、特に地球温暖化への対応です。企業に求められる役割も大きいものがあり、当社はライフサイクル全体でCO_2排出量の削減に努めています

01 省エネ商品による温暖化防止への貢献

商品使用時の消費エネルギーを削減する省エネ商品の開発と普及に努めています。商品の地球温暖化防止への貢献度の指標となる「当社省エネ商品使用による省エネ量」は市況悪化による売上げ減少の影響で、2008年度はCO_2換算で53.6万tとなりました。今後も省エネ技術に磨きをかけ、優れた省エネ商品を創出していきます。

省エネ商品使用による省エネ量の推移（概算値）



・（代表品番1台あたりの省エネ量）×（年間販売量）×（年間想定使用時間）
・電力CO_2換算係数＝0.39kg-CO_2／kWh

私の取り組み ›››
次世代のあかり LED照明器具 EVERLEDS（エバーレッズ）

谷村 一郎
インテリア照明事業部
商品企画グループ

LEDは白熱灯、蛍光灯に続く次世代のあかりとして注目されています。当社EVERLEDSは、省電力、長寿命、コンパクト、水銀レスなど高い環境性能を持ち、白熱灯と比べ、年間約31kgのCO_2を削減し、ランプ寿命は約4万時間を達成※。2009年度には約300品番の品揃えを追加し、「快適＆エコ」で良質な空間演出を提供していきます。

※対象商品 LED照明器具：LED6個タイプ
白熱灯：ミニクリプトン電球60形（110V）
CO_2排出量試算条件
年間約2,000時間点灯
CO_2換算係数：0.39kg-CO_2／kWh

私の取り組み ›››
「見える化」により省エネに貢献する情報システム ライフィニティ／WeLBA（ウェルバ）

エネルギーの使用量を見える化することでエネルギーの使用状況がわかり、無駄に使われているエネルギーを見つけることができます。活動する人の状況に応じながら、無駄をなくすことで省エネに貢献していきます。住宅では「ライフィニティECOマネシステム」を提供。親しみやすいアニメーションを用いて「見える化」による省エネを推進しています。ビルでは「WeLBA」を開発。「見える化」による省エネとともに、入居者の多数決により室温を決定する「室温リクエスト」機能を搭載し、快適性と省エネの両立を進めています。

岡村 晶子
情報機器新事業推進部

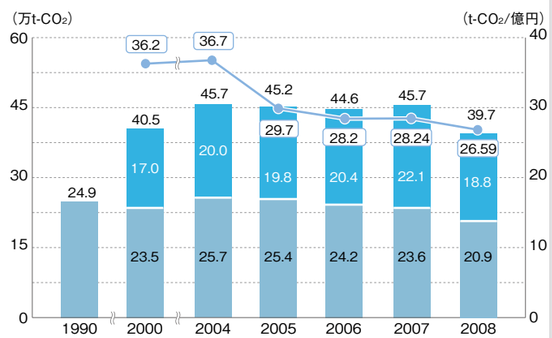
杉野 雅哉
ビルシステム事業部
商品技術グループ

◀環境性能に優れた商品の創出

使用時の消費エネルギーを削減すれば、地球温暖化防止に貢献できるため、省エネ商品の創出を進めています。

02 製造部門における CO_2排出量削減

CO_2排出量と売上高原単位の推移



＊CO_2排出量算出基準について
・日本以外の購入電力の係数は、GHGプロトコルの国別の係数を使用
・日本の購入電力の係数は、電気事業連合会発表使用端当該年度の係数を使用（2006年度以降は0.410kg-CO_2/kWh）
・燃料関係は環境省「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」の係数に基づく

2008年度のCO_2排出量は39.7万t-CO_2となり、当初計画の10.4%減となりました。これは、エネルギーの見える化設備（メタゲジ）の導入によるムダ要素の発見と徹底削減への取り組みをはじめとする全事業場でのCO_2削減取り組みの成果である一方、世界的不況による生産減少の影響も少なくありませんでした。また、売上高原単位は26.59t/億円と前年度比5.9%減となりました。2009年度はCO_2排出量の目標を38.5万t-CO_2とします。また、継続的なCO_2排出削減への体質を強化するために、メタゲジを活用した固定エネルギーの削減をはじめとするエネルギー使用効率の向上に注力します。

私の取り組み ›››
「津工場まるごとエコ」全員活動による消費エネルギーの削減

情報機器ものづくり・調達センター 生産技術部 環境施設課（写真左から）
今井 龍司　栗田 優子　馬場 照義

2008年8月より「津工場まるごとエコ」全員活動として体制を整備し、各職場に任命した省エネキーマンを中心に「空調」「照明」「OA機器」「衛生設備」の省エネ活動を推進。2008年度は「省エネチェックリスト」を使って毎月自部署の省エネ実施状況を確認し、事務局による職場巡視で状況を再確認。また、省エネ啓発ポスターを作成し、廊下や手洗い場などよく目につくところに掲示。2008年度は空調のこまめな省エネ、照明の間引きなどの全員活動で約233tのCO_2の削減を達成しました。

省エネチェックリスト

私の取り組み ›››
空調の運用状態を「見える化」することによるムダの削減

パナソニック電工自動化控制上海　（写真右から）

ジャン ウェンシャン
蒋文娴
総務部門 環境担当

グゥ ジュン
顾军
総務部門 電力計の見える化担当

ツァン シャオツォン
庄晓忠
製造部施設管理

空調制御を個人がスイッチのみで行っていましたが、空調制御盤内に簡易電力計を設置し、空調エネルギーの「見える化」を実現しました。「見える化」をすることにより、空調運用のムダがわかりやすくなりました。たとえば、「使用していないときは空調を切る」などの、ムダ削減活動が習慣化できたことで、年間19tのCO_2削減を実現しました。

メタゲジによる見える化

働きやすい職場づくり

近年、企業に対する社会や株主からの要請が多くなるとともに、生活者のニーズが多様化してきました。そうしたニーズに対応しながら日々の生活を充実させ、仕事への活力を生み出そうと、労使で働きやすい職場づくりを進めています

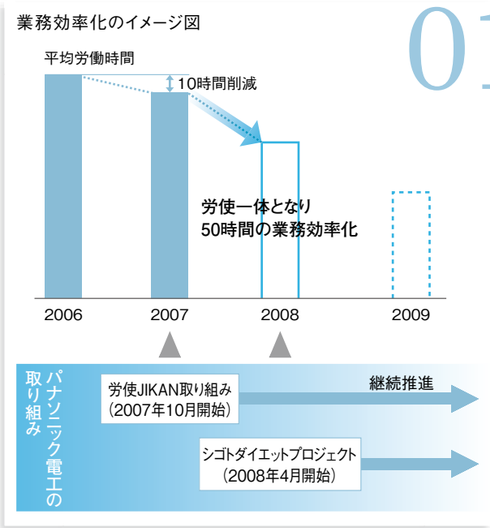
◀ダイバーシティの推進

従業員一人ひとりが、それぞれの異なる意見・考え方を融合しながら、お客様に感動を提供したいと考えています。

（写真左から）
ビーラッパン ビーラスレシュクマル（法務部）　韓 麗花（品質革新推進部）　ムサエワ フェルザ（人事部）
権 旻娥（スイッチングデバイス事業部）　ロナルド ホワイトフォード（照明グローバル戦略企画室）
アーナンダゴダ マニーンドラ（情報機器グローバルマーケティング部）

01 ワーク・ライフ・バランス※1の実現

ワーク・ライフ・バランス実現のための取り組みの一環として、2007年10月から労使による労働時間削減に主眼を置いた「労使JIKAN取り組み」を開始。2008年4月までの累計で従業員一人当たり平均労働時間10時間の削減を実現しました。この取り組みを加速し、業務の効率化・生産性向上に主眼を置いた「シゴトダイエットプロジェクト」を開始。2009年3月までにさらに年間50時間の効率化などを実現しました。こうした活動が社外から評価され、ワーク・ライフ・バランス推進会議主催の第2回「ワーク・ライフ・バランス大賞」の「大賞」を受賞。今後も労働時間削減、業務の効率化を継続推進していきます。



02 ダイバーシティ※2推進活動

これまでの「女性躍進活動」に加え、「外国人」「障がい者」という視点を加えて、ダイバーシティの3本柱として取り組んでいます。こうした視点を実感・理解することは、より質の高い「真・お客様主義」へとつながり、多様化する生活者のニーズにお応えできるものと考えています。

3つの活動領域の従業員を支援する取り組み事例

女性の活躍への支援

◆女性社員の積極的な採用と活用
◆女性リーダー育成研修の開催

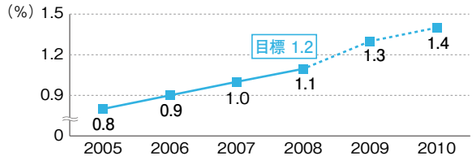
外国人従業員への支援

◆社内規程・規則の英訳化
◆ビジネス日本語研修の開催

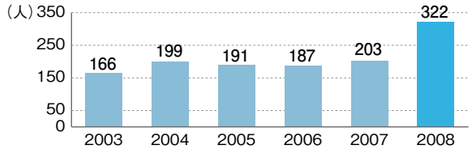
障がいのある従業員への支援

◆聴覚障がい者参加の講演会・研修会での手話通訳
◆手話講習会の開催

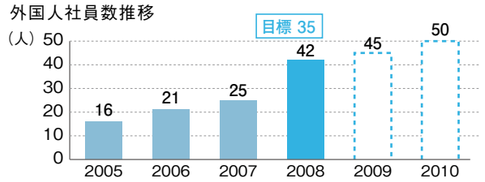
役職者における女性比率推移



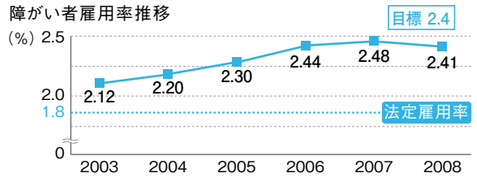
育児休業制度利用者数推移



外国人社員数推移



障がい者雇用率推移



解説

【※1　ワーク・ライフ・バランス】
労働者が高い意欲を持って心身とも充実した状態で働き、仕事の成果を十分に発揮していけるようにするため、「仕事と私生活との両立」を重要視する考え方のこと。

【※2　ダイバーシティ】
直訳すると「多様性」。人間には性別、国籍、障がいの有無や内面の個性・価値観の違いまでさまざまな属性があり、それらすべて含めて「多様性」といいます。

私の取り組み ››› シゴトダイエットに取り組んで

岩瀬 健弘 シゴトダイエット プロジェクトリーダー

人に喜ばれたり、認められたりするシゴトはやりがいもあり、やっていて楽しいと思います。しかしそうでなくてもやらなければならないシゴトがあるのも事実です。そんなシゴトは徹底的にダイエットし、生まれた時間をやりがいのあるシゴトや、自己投資などに使えれば、個人としても会社としても幸せだと思います。「ものをつくる前に、ひとをつくる」という創業者・松下幸之助の教えを元に、“快適な”パナソニック電工をめざします。

私の取り組み ››› ダイバーシティ・マネジメントについて

川原 理恵子 ダイバーシティ推進室

ダイバーシティ推進は社会貢献活動ではなく、企業が今後成長するために必要な施策だと思っています。多様化するお客様のニーズに応えるには、まず、社内で多様な意見が生まれる風土にすることが大切です。様々な立場や意見を持つ人が職場に存在し、彼らの特長を理解し、活かしあえる会社風土になれば、新しいアイディアや企画が生まれてくるのではないでしょうか。社員一人ひとりがイキイキと活躍し、1＋1が3にも4にもなるような職場の実現をめざしていきます。

ひろがる企業市民活動

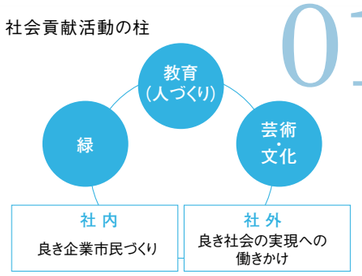
当社では事業を通じて培ってきた「人材・ノウハウ・資産」を活用して様々な分野での活動を展開しています

企業には商品やサービスによって社会に貢献するだけでなく、企業市民としての活動が求められています。

◀「ながきの森」での植林活動

社内公募により、森の長寿への願いを込めて名付けた「ながき（長生き）の森」において2007年より植林を実施。

01 緑、教育、芸術・文化



「良き企業市民」として『より良き社会』の実現をめざすことを基本方針に、緑、教育（人づくり）、芸術・文化を大きな柱として、社会貢献活動を推進しています。従業員の自覚と実践をサポートするとともに、地域社会との関わりを大切にし、社会と共存共栄を図る企業文化・風土を醸成することをめざしています。

02 「ながきの森」植林と地域交流

和歌山県の「企業の森」事業に参画し、「ながきの森」と名付け植林活動を開始。2008年秋には地元の祭への参加や、社内イベントで特産物の出店など、地元との交流を実施。2009年4月には、従業員や社員OBとその家族など総勢約380名で3回目の植林を行いました。今後も地元のご協力のもと、地域本来の森に近い森林保全活動と地域交流を図っていきます。

「ながきの森」植林活動に参加した子供たち

03 汐留ミュージアムからの芸術・文化活動

開館5周年
ルオー没後50年特別展
「ルオーとマティス」

「村野藤吾 建築とインテリア」展

当社が所蔵する20世紀フランスを代表する画家 ジョルジュ・ルオーの作品を鑑賞していただくために、2003年4月、東京本社ビル内に汐留ミュージアムを開設。ルオー作品の常設展示や、当社の事業と関わりの深い「建築・住まい」「生活文化」をテーマとする企画展を実施。2008年秋には絵画の楽しみ方を学芸員が解説する絵画鑑賞セミナーを東京・大阪・名古屋で開催。今後も、芸術・文化活動を展開していきます。

04 企業スポーツ「パナソニック電工インパルス」

「インパルスデー」の様子

1974年にアメリカンフットボール部を創部。選手は通常業務の後、練習を行い、これまで6度の社会人王者と3度の日本一に輝いています。こうした「仕事とフットボールの両立」を追求する方針とチームの強化が評価され、「第58回日本スポーツ賞」の競技団体別最優秀賞を受賞。アメリカンフットボールをさらに普及させるために、2008年度から東西学生王座決定戦に協賛し、「パナソニック電工杯毎日甲子園ボウル」として協力。また近隣の子供たちに「インパルスデー」として、アメリカンフットボールの楽しさを伝えています。

05 小学生へのあかりのエコ教室開催

子供たちへの環境意識向上のため、当社社員があかりに関する環境をテーマに2009年3月に大阪府枚方市、兵庫県西宮市の小学校で出前授業を実施。手回し発電機で発電しながら白熱灯、蛍光灯の違いを体験してもらいました。

あかりのエコ教室（大阪府）

06 災害復興支援の取り組み

四川大地震に義援金を労使で寄付

大規模な災害が発生した際、被災者救済活動支援や被災地域への復興支援を行っています。従業員からの募金と同額以上を会社が寄贈する方式で義援金を拠出し、対象者・地域へ寄贈・支援しています。

〔2008年度の主な支援活動〕

- ミャンマー・サイクロン災害
- 中国・四川大地震災害
- 岩手・宮城内陸地震災害

ひろがる企業市民活動

各地区では事業所周辺に対し、様々な企業市民活動を労働組合とも協力しながら展開しています。その一例を紹介します

07 事業所周辺の植樹・自然保護活動

↑〔2008年5月実施〕
富士山の自然を守るため、富士山火山荒地での植林活動に218人が参加。これまでで、延べ776人が約6,700本の苗木を植林。

〔北海道地区：2008年5月実施〕
社員と家族を含め44人が、夕張に桜の木41本を植樹。

08 事業所周辺の住民の方との交流

〔パナソニック電工香川：2008年8月実施〕
工場から出た端材を使って、ティッシュケースやごみ箱を制作する夏休み親子工作教室を開催し、地域小学生親子11組が参加。

09 事業所周辺の清掃活動

〔彦根・栗東・米原工場：2008年9月実施〕
京阪神地区の水がめである琵琶湖の清掃活動を県下一斉に行い、従業員および社員OB/OGあわせて107人が参加。

〔パナソニック電工郡山：2008年10月実施〕
猪苗代湖の清掃活動に97人が参加。

会社概要

くらしの中のパナソニック電工 21
グローバル展開 23
業績・財務情報／会社の沿革・2008年度の主な社外からの表彰 25

本社

東京本社

会社概要

くらしの中のパナソニック電工

省エネ、快適・便利、安心・安全、健康・高齢化、情報化など
社会トレンドを捉えた幅広い商品群で、ひと・街・くらしのさまざまなシーンに
密着した快適環境を創造・実現します。

住まいや身のまわりの製品で

住宅用照明器具「リフターツインPa」

住宅用LED照明器具「EVERLEDS」

「ライフィニティ ECOマネシステム」

住宅用火災警報器 薄型（上） ワイヤレス連動型（下）

玄関番プラス

高機能住宅分電盤

エコキュート

システムバスルーム「ココチーノ」

システムキッチン「リビングステーション」

インテリア住宅部材「リビエ」

全自動おそうじトイレ「アラウーノ」

ナイトスチーマー「ナノケア」

メンズシェーバー「ラムダッシュ」

マッサージソファ

街や施設・オフィスで

街路灯

LED照明器具

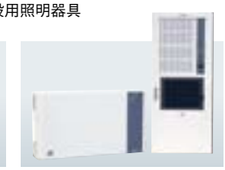
施設用照明器具

薄型大画面テレビ

入退室管理システム

センサ付自動スイッチ

多回路エネルギーモニタ


エミット・ビルコントローラWeLBA

プロジェクター

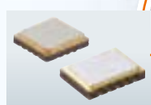
ビルトインエアコン

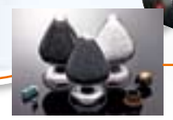
監視カメラ

非常用放送設備

自動車・モバイル製品の中で

防塵・防水性スイッチ「ターコイズスイッチ」


「PIMITES MEMSデバイス」


車載部品用成形材料「ECOM Pシリーズ」

高信頼性ガラスエポキシマルチ「HIPERシリーズ」

狭ピッチコネクタ

3D実装デバイス「PIMITES"MIPTEC"」

フレキシブルプリント配線材料「FELIOSシリーズ」

環境対応プリント配線材料「ハロゲンフリーエポキシマルチ」

納入事例　近年の主なご採用事例をご紹介します。

グラントウキョウ

JR東京駅八重洲口に完成したツインタワー「グラントウキョウ」に当社のライトアップ照明が採用されました。鉛直方向に配置したLED照明と、頂部の3色LED照明および投光器により建築コンセプトである「光に包まれるクリスタルの塔」を表現しています。

ザ・ウィンザーホテル洞爺 改修工事

北海道洞爺湖サミットの首脳会議場となった「ザ・ウィンザーホテル洞爺」。アプローチとエントランスにLED照明を配置し、気品ある空間演出を実現。先端の環境技術によるあかりでG8首脳を迎えました。

赤坂Bizタワー

東京・赤坂に誕生した複合エリア「akasakaSacas（赤坂サカス）」の中核をなす「赤坂Bizタワー」。ロビー、オフィス、商業施設、外構など全館に当社の照明設備が採用されました。

北京市運動公園 照明制御システム

中国・北京市にある大型運動公園に世界最大級の「IPv6・省エネ照明制御システム（エリア マネジメント システム）」が導入されました。エリア毎に電力使用量をきめ細かく計測・管理することで、照明制御だけでなく約23%の省エネが実現しました。

上海環球金融中心

（上海ワールドフィナンシャルセンター）

中国経済の牽引役として発展著しい上海。世界の金融センターとして国家プロジェクトで開発が進められているエリアに、地上101階、高さ492mの「上海環球金融中心」が完成しました。省エネ照明、昇降機制御システムといった当社の最先端の設備が導入されています。

会社概要

グローバル展開

世界のパナソニック電工へ着々と展開しています。

（2009年4月1日現在）

海外事業について

パナソニック電工グループは日本、中国・北東アジア、アジア・中近東・アフリカ、アメリカ、ヨーロッパ・ロシアの5極体制で事業を展開しています。世界36カ国・地域の84社135拠点を通じ、100カ国以上のお客様に当社グループの幅広い商品展開によって快適な生活をお届けしています。

中期経営計画に掲げた「海外事業の拡大」と「デバイス事業の拡大」の成長戦略のもと、積極的なグローバル展開を図っています。成長の中心が新興国へとシフトするなか、重点市場である中国市場に加え、インドを中心としたアジア市場の内需に的を絞り、経営資源のシフトを進めています。特に、中国での省エネ支援事業や快適な住空間事業の推進、インドのアンカー エレクトリカルズ株式会社を核とした情報機器商品のアジア・中近東地域への積極展開などにより、次なる成長へ向けた事業基盤を強化していきます。

また、現地での商品企画・開発機能の強化を進め、ますます多様化する新興国市場でのニーズに応えていくことにより、グローバルに着実な成長をめざします。

中国・北東アジア 32社

製造会社 21
販売会社 9
その他会社 2

主要な連結会社

パナソニック電工北京有限公司（中国／照明器具、配線機器、健康器具の製造、販売）
パナソニック電工・万宝電器広州有限公司（中国／美・理容器具の製造、販売）
パナソニック電工蘇州有限公司（中国／プリント配線材料の製造、販売）
パナソニック電工電子材料広州有限公司（中国／プリント配線材料の製造、販売）
パナソニック電工控制装置北京有限公司（中国／制御機器の製造、販売）
パナソニック電工中国有限公司（中国／電気機械器具、制御機器等の販売）
パナソニック電工電子材料台湾株式会社（台湾／プリント配線材料の製造、販売）

パナソニック電工北京有限公司

パナソニック電工蘇州有限公司

欧州 26社

製造会社 12
販売会社 13
その他会社 1

主要な連結会社

パナソニック電工フォスロ・シュワーベ有限会社
（ドイツ／照明デバイス機器の製造、販売）
パナソニック電工電子材料ヨーロッパ有限会社
（オーストリア／プリント配線材料の製造、販売）
パナソニック電工ヨーロッパ株式会社
（ドイツ／制御機器の製造、販売）

パナソニック電工ヨーロッパ株式会社 ドイツ工場

パナソニック電工電子材料ヨーロッパ有限会社

アンカー エレクトリカルズ株式会社

パナソニック電工アユタヤ株式会社

アジア・中近東・その他 18社

製造会社 8
販売会社 9
その他会社 1

主要な連結会社

パナソニック電工・ゴーベル インドネシア株式会社
（インドネシア／照明器具の製造、販売）
パナソニック電工タイ株式会社
（タイ／美・理容器具、制御機器の製造、販売）
パナソニック電工アユタヤ株式会社
（タイ／化学材料、プリント配線材料、照明器具、配線機器の製造、販売）
パナソニック電工アジアパシフィック株式会社
（シンガポール／制御機器、電子材料、電気機械器具、住宅設備機器の販売）
アンカー エレクトリカルズ株式会社（インド／配線機器、照明器具）

米州 8社

製造会社 4
販売会社 2
その他会社 2

主要な連結会社

パナソニック電工アメリカ株式会社
（アメリカ／制御機器、照明デバイス機器の製造、販売）
ULTホールディングス株式会社
（アメリカ／照明デバイス機器の製造、販売）

ULTホールディングス株式会社

パナソニック電工アメリカ株式会社

パナソニック電工グループ

パナソニック電工株式会社

本社（大阪府）
東京本社（東京都）

工場（10）
門真工場（大阪府／システムキッチン）
新潟工場（新潟県／照明器具）
茨城工場（茨城県／配管機材）
幸田工場（愛知県／水まわり設備）
津工場（三重県／配線機器、制御機器、防災・防犯機器）
伊勢工場（三重県／制御機器）
彦根工場（滋賀県／美・理容器具、健康機器）
米原工場（滋賀県／雨樋）
栗東工場（滋賀県／雨樋）
久留米工場（福岡県／整水器、ポンプ）

販売拠点（113）

研究所（9）
新規商品創出技術開発部／先行技術開発研究所
生産技術研究所／電器R&Dセンター
照明R&Dセンター／情報機器R&Dセンター
住建総合技術センター／電子材料R&Dセンター
制御技術応用研究所

主要な国内連結会社

製造分野

パナソニック電工施設照明株式会社
（大阪市／照明器具）
パナソニック電工インテリア照明株式会社
（三重県／照明器具）
パナソニック電工建装照明株式会社
（大阪府／照明器具）
パナソニック電工電路株式会社（愛知県／電路機器）
パナソニック電工東海株式会社（三重県／配線機器）
クボタ松下電工外装株式会社
（大阪市／屋根材、外装材）
パナソニック電工群馬株式会社（群馬県／木質床材）
パナソニック電工バス&ライフ株式会社
（茨城県／水まわり設備）
パナソニック電工郡山株式会社
（福島県／プリント配線材料）
パナソニック電工四日市株式会社
（三重県／成形材料、プリント配線材料、半導体封止材）
サンクス株式会社（愛知県／制御機器）
パナソニック電工帯広株式会社（北海道／制御機器）
他27社

販売分野・サービス分野・エンジニアリング分野等

福西電機株式会社（大阪市）
パナソニック電材システム株式会社（東京都）
石垣電材株式会社（札幌市）
パナソニック電工リビング首都圏株式会社（東京都）
パナソニック電工リビング近畿株式会社（大阪市）
パナソニック電工リビング東海株式会社（名古屋市）
パナソニック電工AWE株式会社（札幌市）
パナソニック電工制御株式会社（東京都）
パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社
（大阪市）
パナソニック電工テクノサービス株式会社（大阪府）
パナソニック電工エンジニアリング株式会社（大阪市）
パナソニック電工ホームエンジニアリング株式会社
（大阪市）
他52社

会社概要

業績・財務情報

原材料価格の高騰と円高の進行に加えて、
新設住宅着工戸数および個人消費が伸び悩みました。
さらに金融危機に端を発した世界同時不況に見舞われ、世界経済激変の影響を大きく受けました。

IR※の基本方針と利益配分

当社は、経営の透明性を確保し、企業価値を高め、収益を適正に還元していくことで、株主からの期待と信頼に応えることをめざしています。また、利益配分については連結業績を考慮した、より積極的な配当施策をとっており、2008年度の年間配当金は1株あたり18.75円、総額138億円となりました。

※IR Investor Relationsの略。企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な企業情報を提供する活動のこと。

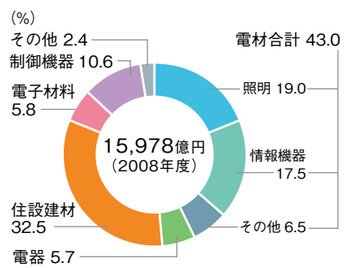
SRIインデックスへの組み入れ

当社のCSR活動が評価され、当社株式がモーニングスター社の社会的責任投資（SRI）株価指数の組み入れ銘柄に初回から6年連続、ダウ・ジョーンズ社のサステナビリティ・インデックスに7年連続で選定され、「ゴールド」クラスと評価を受けました。その他、複数のSRIファンド銘柄にも組み込まれています。

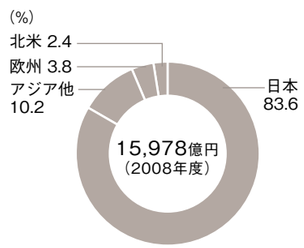
（2009年5月31日時点）

MS-SRI　Dow Jones Sustainability Indexes Member 2008/09　sam 2009 gold class

●部門別売上高構成比（連結）

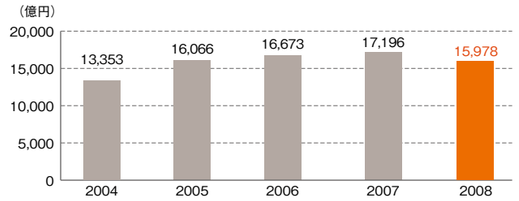


●地域別売上高構成比（連結）

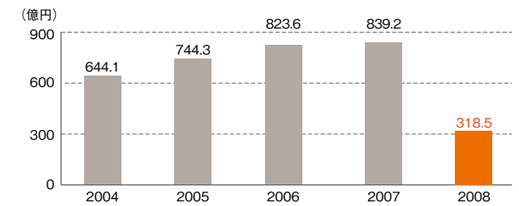


※ROA Return On Assetsの略。企業が持っている総資産が利益獲得のためにどれほど効率的に利用されているかを示す指標。経常利益÷総資産で算出。

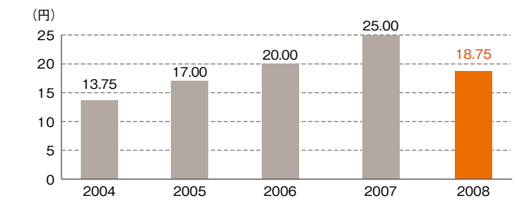
●売上高の推移（連結）



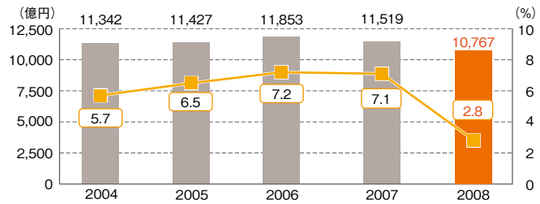
●営業利益の推移（連結）



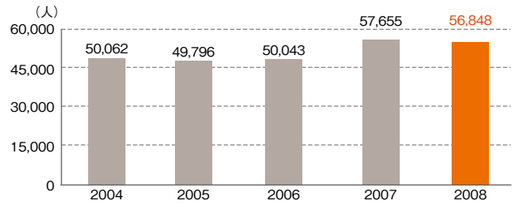
●1株当たり配当金の推移



●総資産・ROA※の推移



●従業員数の推移（連結）



会社の沿革

（2009年4月1日現在）

国内

1918年 3月 松下幸之助が「松下電気器具製作所」を設立創業。配線器具の生産・販売を開始
1935年 12月 「松下電器株式会社」として分社。配線器具、合成樹脂、電線管を生産・販売
1943年 8月 「松下航空工業株式会社」に改称
1945年 11月 「松下電工株式会社」に改称
1952年 5月 蛍光灯器具の生産を開始
1955年 3月 ドライヤーを発売。同年12月には電気カミソリを発売
1958年 5月 プラスチック雨樋を発売。8月にプラスチック積層品〈パネライト〉を発売。建材事業に本格進出を果たす
1965年 6月 営業部制スタート
1981～83年 防災事業、健康商品事業、FA（ファクトリー・オートメーション）機器事業へ相次いで進出
1984年 6月 事業本部制がスタート
1988年 1月 企業スローガン「A&I 快適を科学します」を制定
1995年 7月 インターネットにホームページ「A&I 快適館」を開設
1998年 6月 高齢化対応介護事業参入
12月 社内分社制度を導入
2000年 12月 企業スローガン「Smart Solutions by NAIS」を制定
2003年 4月 東京・汐留に「松下電工ビル（現、パナソニック電工ビル）」がグランドオープン
2004年 4月 松下電器産業株式会社（現、パナソニック株式会社）が当社の親会社となる
12月 マーケティング本部制を導入
2005年 2月 決算期を11月30日から3月31日に変更
2008年 10月 「パナソニック電工株式会社」に改称。「Panasonic」ブランドに統一

海外

1974年 7月 ドイツにリレー製造会社「MSリレーズ有限会社（現、パナソニック電工ヨーロッパ株式会社）」を設立
12月 アメリカにリレー製造会社「アロマット株式会社（現、パナソニック電工アメリカ株式会社）」を設立
1986年 12月 台湾に配線器具製造会社「台湾松工電材株式会社（現、パナソニック電工電材台湾株式会社）」を設立
1987年 7月 タイに電線管製造会社「タイ松下電工スチール株式会社（現、パナソニック電工スチールタイ株式会社）」を設立
1990年 3月 シンガポールに販売会社「アジアパシフィック松下電工株式会社（現、パナソニック電工アジアパシフィック株式会社）」を設立
1993年 1月 中国（北京）に照明・配線器具、電器商品などの製造会社「北京四通松下電工有限公司（現、パナソニック電工北京有限公司）」を設立
1995年 7月 香港に販売会社「香港松下電工有限公司（現、パナソニック電工香港有限公司）」を設立
1996年 1月 メキシコにアロマット社のサテライト工場「アロマットメキシカーナ株式会社（現、パナソニック電工メキシコ株式会社）」を設立
1997年 9月 中国（北京）に「松下電工（中国）有限公司（現、パナソニック電工中国有限公司）」を設立
2002年 8月 照明事業の欧州拠点となる「フォスロ・エレクトロ有限会社（現、パナソニック電工フォスロ・シュワーベ有限会社）」を買収
2007年 4月 インドにおける情報機器事業の拠点となる「アンカー エレクトリカルズ株式会社」を買収
12月 アメリカの照明用バラスト製造企業「ユニバーサル・ライティング・テクノロジーズ株式会社（現、ULTホールディングス株式会社）」を買収

2008年度の主な社外からの表彰

4月 ●FRP亜臨界水分解リサイクル技術の研究が、平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）を受賞

6月 ●第6回消費者教育教材資料表彰（企業対象）の印刷資料部門で優秀賞を受賞

●あかり安心サービスが第6回日本環境経営大賞環境価値創造部門「環境プロジェクト賞」受賞

7月 ●「エミット・ビルコントローラ WeLBAシリーズ」が2008電設工業展製品コンクール国土交通大臣賞（最高賞）を受賞

●「ライフィニティ」がINTEROP TOKYO 2008「Best of Show Award」プロダクト部門・ホームネットワーキング関連製品のグランプリを受賞

9月 ●ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックスに7年連続で選定

●「ライフィニティECOマネシステム」がグリーンITアワード2008【ITによる社会の省エネ】分野で経済産業省商務情報政策局長賞を受賞

11月 ●第46回技能五輪全国大会で当社社員が銀・銅メダル、敢闘賞も2職種で3人受賞

●第2回ワーク・ライフ・バランス大賞で大賞（最高賞）を受賞

12月 ●第5回エコプロダクツ大賞 エコプロダクツ部門で木質床材「Eフロアー」シリーズがエコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）を受賞

2009年

1月 ●第58回日本スポーツ賞でパナソニック電工インパルスが競技団体別最優秀賞を受賞

3月 ●2009 J-Winアワードでダイバーシティ活動が評価され準大賞を受賞

●第25回技能グランプリで当社社員が、金賞、厚生労働大臣賞、銅賞（2人）を受賞